

ホーム > 気象統計情報 > 天気予報・台風 > 過去の台風資料 > 台風の統計資料 > 台風の接近数 > 沖縄地方への接近数

沖縄地方への台風接近数

台風の中心が沖縄県のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を「沖縄地方に接近した台風」としています。

(注) 接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しません。

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
2011					2	1	1	1	2				7
2010								3	3	1			6
2009								1		2			3
2008					2		2		2				6
2007							1	3	2	2			8
2006							3	2	1				6
2005						1	1	2	3	2			8
2004					1	2	1	4	3	3		1	15
2003				1	1	2		2	2		1		9
2002						1	5	1	1				8
2001					1		1	1	2	1			6
年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
2000					1		2	3	2	1	1		10
1999							2	3	1		1		6
1998								2	2	1			5
1997					1	2	1	3	1	1			9
1996					1		2	2	2	1	1		7
1995							1	1	1				3
1994							2	4	2	1	1		9
1993							2	1	2	1			6
1992						1		3	2		1		7
1991					1		1	2	4	2			10

- [台風の発生数](#)
- [台風の接近数](#)
- [台風の上陸数](#)
- [台風の平年数](#)
- [台風の順位](#)
 - [発生数](#)
 - [接近数](#)
 - [上陸数](#)
 - [発生日時](#)
 - [上陸日時](#)
 - [中心気圧が低い台風](#)
 - [長寿台風](#)
 - [順位の見方](#)

~~甲台風1-2~~
甲台風1-2

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
1990					1	1	1	3	3	1	1		11
1989						1	2	2	3				7
1988						2		1	1	2			6
1987						1	5	1		1			7
1986					1	1	2	3	1		1		9
1985					1	1	1	5		2			10
1984						1	1	2				1	5
1983								2	1	1			4
1982							2	3	2				7
1981						2	2	1	1	2	1		8

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
1980								1	1	1	1		4
1979					1			2	2	1			6
1978						2	2	3	1	1	1		10
1977							1	2	1				3
1976					1	1	3	2	1		2		9
1975							1	3	1	2	1		7
1974						1	3	2	2				8
1973							2	1					3
1972							1	2	1				4
1971				1	1		2	3	2	1	1		11

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
1970							1	2	2				5
1969								2	1	1	2		6
1968							1	2	2	1			6
1967				1			2	1	1	2	1		7
1966					2	1	1	4	5				12
1965					1	3	1	2	3		1		11
1964							3	2	1				6
1963							2	2	2	2	1		9
1962					1		3	4	1		1		9
1961					1	1	1	1	3	1			8

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
1960						1	2	5					7
1959							1	2	2	2	2		9
1958						1	3	2	2		1		9
1957						1		2	2		1		6
1956				1			1	3	4				8
1955				1			2	2	1	1			7
1954							1	2	3				6
1953						1	1	2	1	1			6
1952						1	2	1			3		7
1951					1	1	2	1	1	1			6

甲台風1-3

[このページのトップへ](#)

[著作権・リンク・個人情報保護](#) | [利用上の注意について\(免責事項\)](#)

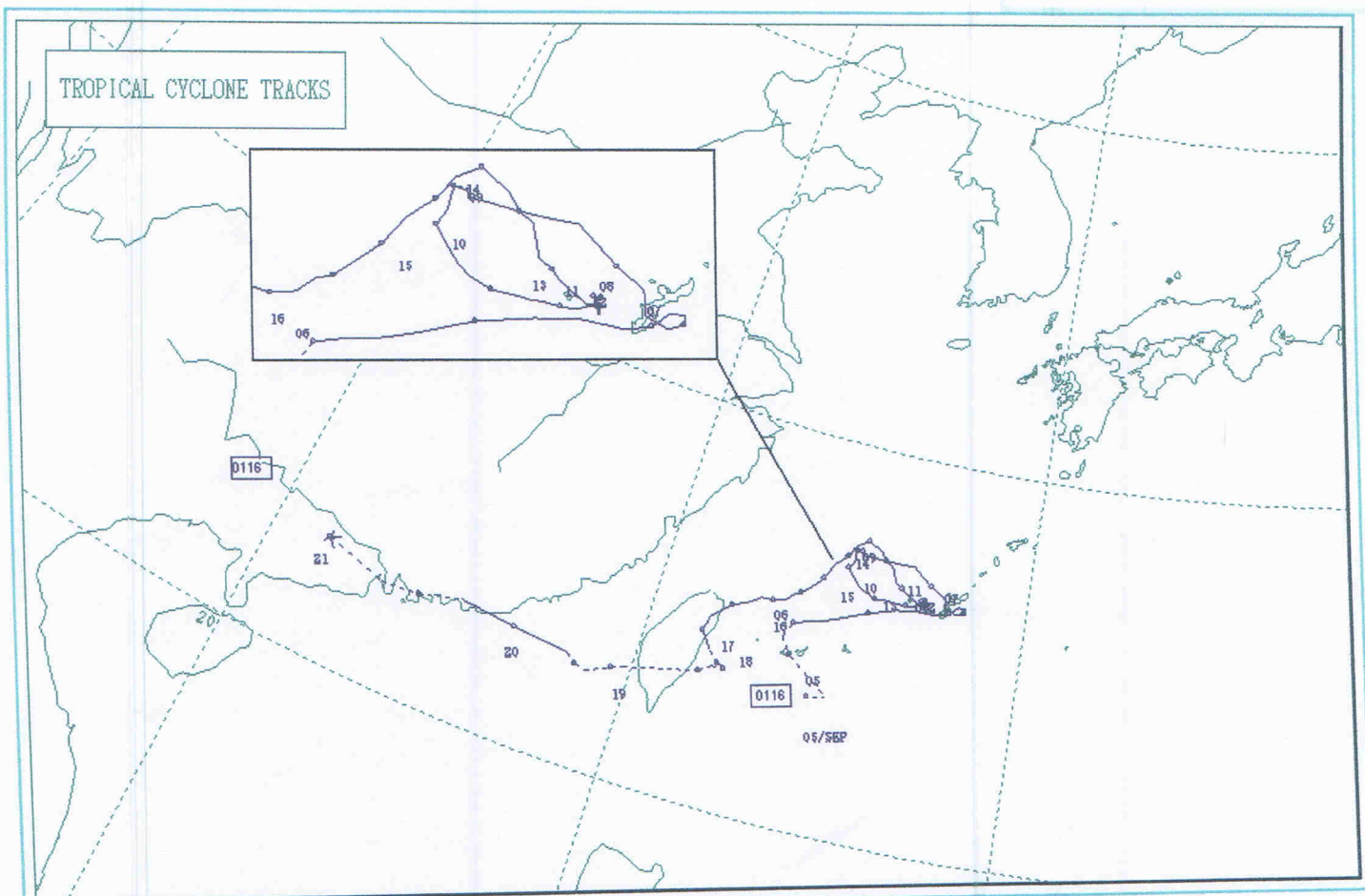
甲台風2

ホーム > 気象統計情報 > 天気予報・台風 > 過去の台風資料 > 台風経路図 > 2001年～2010年 > 2001年

台風経路図2001年

各日時の詳細な位置等については[台風位置表](#)をご覧ください。

表示する台風を選択してください
第16号(0116)



経路上の○印は傍らに記した日の午前9時、●印は午後9時の位置で→は消滅を示します。
経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示します。

[このページのトップへ](#)

[著作権・リンク・個人情報保護](#) | [利用上の注意について\(免責事項\)](#)

甲台風2-2

台風0116号 (0116 NARI)

位置表

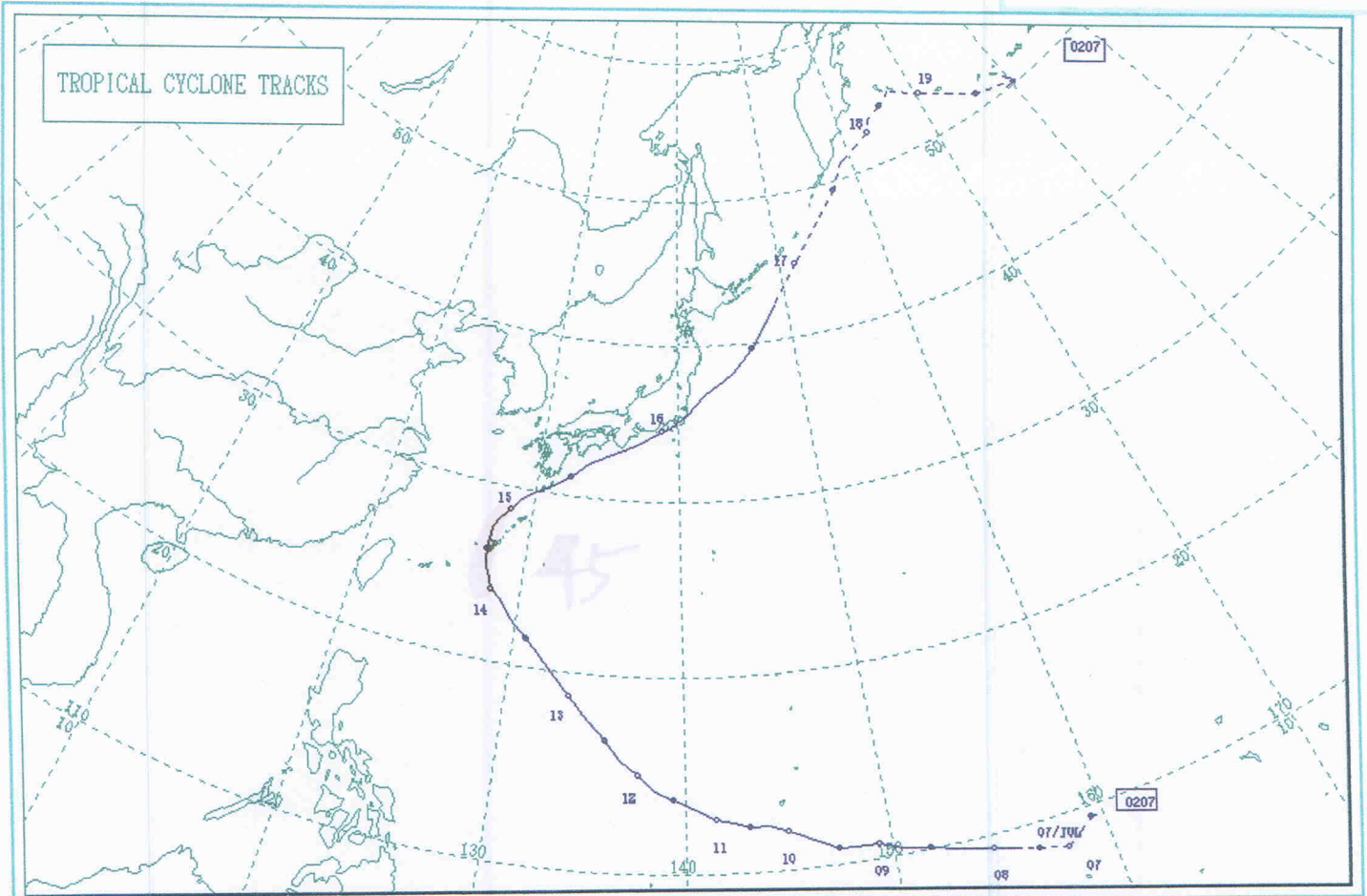
月	日	時	中心位置		中心 気圧 hPa	最大 風速 m/s	暴風域半径 km	強風域半径 km	大きさ・強さ等	
			緯度	経度					大きさ	強さ
9	5	09	23.4 N	124.6 E	1004	—	—	—	熱帯低気圧発生	
	10	00	27.2	125.0	970	30	60	190	—	—
		03	27.2	125.0	970	30	60	190	—	—
		06	27.0	125.0	970	30	60	190	—	—
		09	26.8	124.9	970	30	60	W: 220 E: 190	—	—
		12	26.6	125.1	970	30	60	W: 220 E: 190	—	—
		15	26.4	125.3	970	30	60	W: 220 E: 190	—	—
		18	26.3	125.5	970	30	60	W: 220 E: 190	—	—
		21	26.2	125.8	970	30	60	W: 220 E: 190	—	—
	11	00	26.2	126.1	970	30	60	W: 220 E: 190	—	—
		03	26.2	126.3	970	30	60	W: 220 E: 190	—	—
		06	26.2	126.5	970	30	60	W: 220 E: 190	—	—
		09	26.2	126.7	970	35	60	W: 220 E: 150	—	強い
		12	26.2	126.9	965	35	60	W: 220 E: 150	—	強い
		15	26.3	127.1	960	40	60	W: 190 E: 110	—	強い
		18	26.4	127.2	960	40	60	W: 190 E: 110	—	強い
		21	26.4	127.2	960	40	60	W: 190 E: 110	—	強い
	12	00	26.4	127.1	960	40	60	W: 190 E: 110	—	強い
		03	26.4	127.1	965	35	70	W: 220 E: 130	—	強い
		06	26.4	127.1	970	35	70	W: 220 E: 130	—	強い
		09	26.4	127.1	970	35	70	W: 220 E: 130	—	強い
		12	26.4	127.1	975	30	60	W: 220 E: 130	—	—
		15	26.4	127.1	975	30	60	W: 260 E: 130	—	—
9	12	18	26.2 N	127.2 E	975	30	60	W: 260 E: 130	—	—
		21	26.3	127.2	975	30	60	W: 260 E: 130	—	—
	13	00	26.3	127.0	975	30	60	W: 260 E: 130	—	—
		03	26.4	126.8	975	30	60	W: 260 E: 190	—	—
		06	26.5	126.6	975	30	60	W: 260 E: 190	—	—
		09	26.6	126.5	975	30	80	W: 260 E: 190	—	—
		12	26.7	126.3	975	30	80	W: 260 E: 190	—	—
		15	26.9	126.2	975	30	80	NW: 300 SE: 190	—	—
		18	27.1	126.1	975	30	80	NW: 300 SE: 190	—	—
		21	27.2	125.9	975	30	80	NW: 300 SE: 190	—	—
	14	03	27.4	125.7	975	30	70	NW: 300 SE: 190	—	—
		09	27.6	125.3	975	30	70	NW: 300 SE: 190	—	—
		15	27.4	125.0	975	30	90	W: 300 E: 190	—	—
		21	27.1	124.8	975	30	90	W: 280 E: 190	—	—
	15	03	26.8	124.5	980	30	90	W: 280 E: 190	—	—
		09	26.4	124.3	975	30	100	190	—	—
		15	26.1	124.0	970	35	100	190	—	強い
		21	25.9	123.8	970	35	100	190	—	強い
	16	00	25.8	123.6	970	35	100	190	—	強い
		03	25.7	123.5	965	35	100	W: 240 E: 190	—	強い
		06	25.6	123.4	965	35	100	W: 240 E: 190	—	強い
		09	25.5	123.1	960	40	90	W: 240 E: 190	—	強い
		12	25.5	122.8	960	40	90	W: 240 E: 190	—	強い
		15	25.3	122.5	960	40	80	S: 240 N: 190	—	強い
		21	25.1	122.1	970	35	60	S: 300 N: 150	—	強い
	17	03	24.7	121.6	990	20	—	S: 370 N: 110	—	—
		09	24.3	121.5	994	18	—	S: 280 N: 110	—	—
		15	23.9	121.8	998	—	—	—	熱帯低気圧に変わす	

甲子風 3

台風経路図2002年

各日時の詳細な位置等については[台風位置表](#)をご覧ください。

表示する台風を選択してください
第7号(0207)



経路上の○印は傍らに記した日の午前9時、●印は午後9時の位置で→は消滅を示します。
経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示します。

台風0207号 (0207 HALONG)

位置表

月日時	中心位置		中心気圧 hPa	最大風速 m/s	暴風域半径 km	強風域半径 km	大きさ・強さ等		
	緯度	経度					大きさ	強さ	
7 6 15	9.5 N	160.0 E	1006	—	—	—	熱帯低気圧発生		
14	00	22.3	130.0	945	45	SE: 240 NW: 190	SE: 650 NW: 440	大型	非常に強い
	03	22.8	129.4	945	45	SE: 240 NW: 190	SE: 650 NW: 440	大型	非常に強い
	06	23.5	128.9	945	45	SE: 240 NW: 190	SE: 650 NW: 440	大型	非常に強い
	09	24.0	128.3	950	40	SE: 220 NW: 150	SE: 650 NW: 390	大型	強い
	12	24.6	128.0	950	40	SE: 220 NW: 150	SE: 650 NW: 370	大型	強い
	15	25.1	127.7	955	40	SE: 200 NW: 110	SE: 650 NW: 330	—	強い
15	18	25.7	127.6	955	40	SE: 200 NW: 110	SE: 560 NW: 330	—	強い
	21	26.2	127.6	960	35	SE: 190 NW: 110	SE: 520 NW: 310	—	強い
	00	26.8	127.6	960	35	SE: 190 NW: 110	SE: 520 NW: 310	—	強い
	03	27.5	127.6	960	35	SE: 190 NW: 110	SE: 480 NW: 300	—	強い
	06	28.1	128.0	960	35	SE: 190 NW: 110	SE: 480 NW: 300	—	強い
	09	28.8	128.6	965	35	SE: 190 NW: 90	SE: 480 NW: 300	—	強い
	12	29.5	129.2	965	35	SE: 200 NW: 70	SE: 480 NW: 220	—	強い
	15	30.1	130.2	965	35	SE: 200 NW: 70	SE: 480 NW: 220	—	強い
18	30.6	131.1	970	35	SE: 190 NW: 60	SE: 460 NW: 170	—	強い	

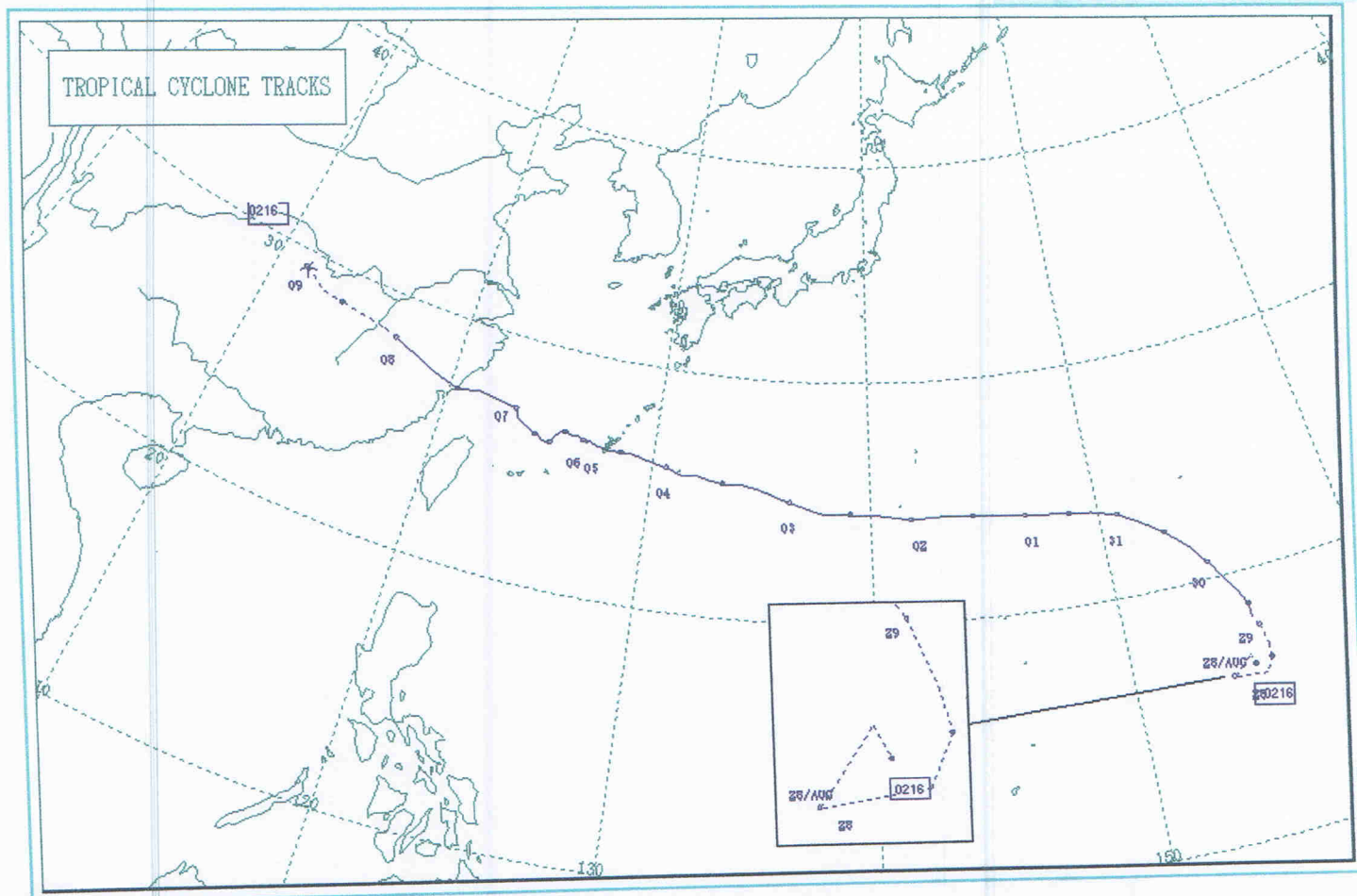
甲 台 4

ホーム > 気象統計情報 > 天気予報・台風 > 過去の台風資料 > 台風経路図 > 2001年~2010年 > 2002年

台風経路図2002年

各日時の詳細な位置等については[台風位置表](#)をご覧ください。

表示する台風を選択してください



経路上の○印は傍らに記した日の午前9時、●印は午後9時の位置で→は消滅を示します。
 経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示します。

台風0216号 (0216 SINLAKU)

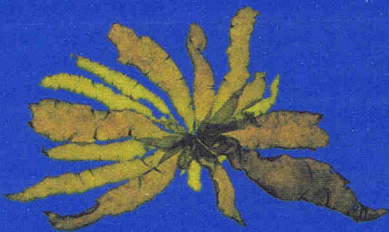
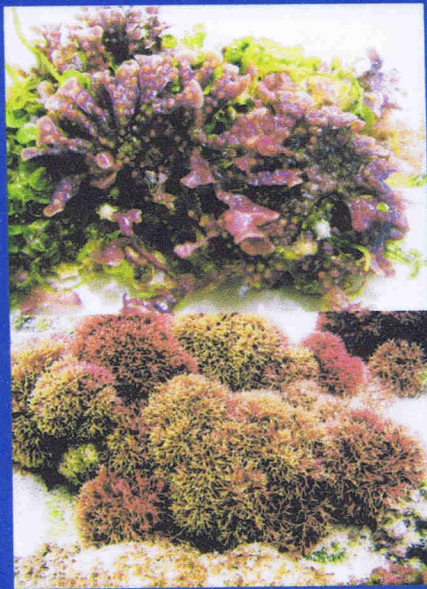
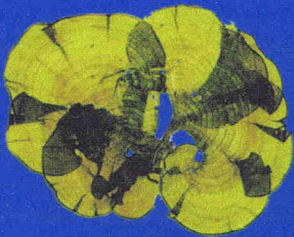
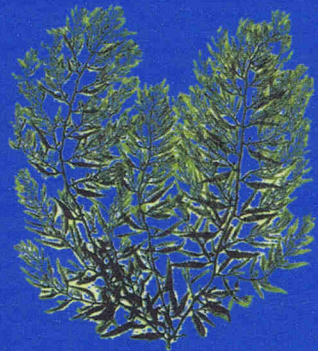
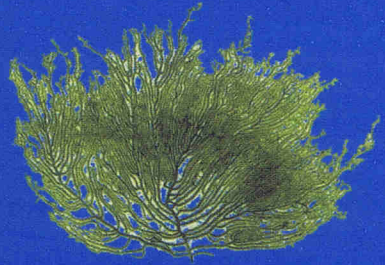
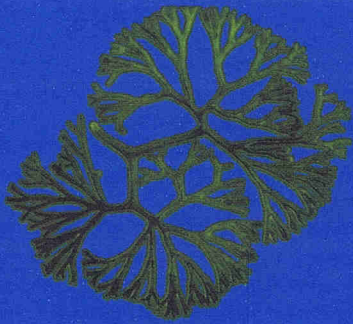
位置表

月日時	中心位置		中心気圧 hPa	最大風速 m/s	暴風域半径		強風域半径		大きさ・強さ等	
	緯度	経度			km	km	大きさ	強さ		
8 27 21	16.4 N	154.7 E	1004	—	—	—	—	—	熱帯低気圧発生	
09	25.9	130.7	960	40	N: 170 S: 110	N: 410 S: 330	—	—	強い	
12	26.0	130.1	960	40	N: 170 S: 110	N: 410 S: 330	—	—	強い	
15	26.1	129.5	960	40	N: 170 S: 150	NE: 410 SW: 330	—	—	強い	
18	26.2	129.0	960	40	N: 170 S: 150	NE: 410 SW: 330	—	—	強い	
21	26.2	128.5	955	40	N: 190 S: 150	NE: 440 SW: 330	—	—	強い	
5 00	26.2	127.9	955	40	N: 190 S: 150	NE: 440 SW: 330	—	—	強い	
03	26.3	127.3	955	40	N: 190 S: 150	N: 440 S: 330	—	—	強い	
06	26.4	127.0	955	40	N: 190 S: 150	N: 440 S: 330	—	—	強い	
08	26.4	126.8	955	40	N: 190 S: 150	N: 440 S: 330	—	—	強い	
09	26.4	126.7	955	40	N: 190 S: 150	N: 440 S: 330	—	—	強い	
12	26.5	126.4	955	40	N: 190 S: 150	N: 440 S: 330	—	—	強い	
15	26.5	126.2	955	40	N: 200 S: 170	NW: 520 SE: 440	—	—	強い	
18	26.5	126.1	955	40	N: 200 S: 170	NW: 520 SE: 440	—	—	強い	
21	26.6	125.8	955	40	N: 200 S: 170	NW: 560 SE: 440	—	—	大型	強い
6 00	26.5	125.5	955	40	N: 200 S: 170	NW: 560 SE: 440	—	—	大型	強い
03	26.3	125.3	955	40	N: 200 S: 170	NW: 560 SE: 440	—	—	大型	強い
06	26.3	125.3	955	40	N: 200 S: 170	NW: 560 SE: 440	—	—	大型	強い
09	26.3	125.3	955	40	N: 200 S: 170	N: 560 S: 370	—	—	—	強い

沖縄の海藻と海草

(自然環境・養殖・海藻250種)

当真 武



出版舎
Mugen

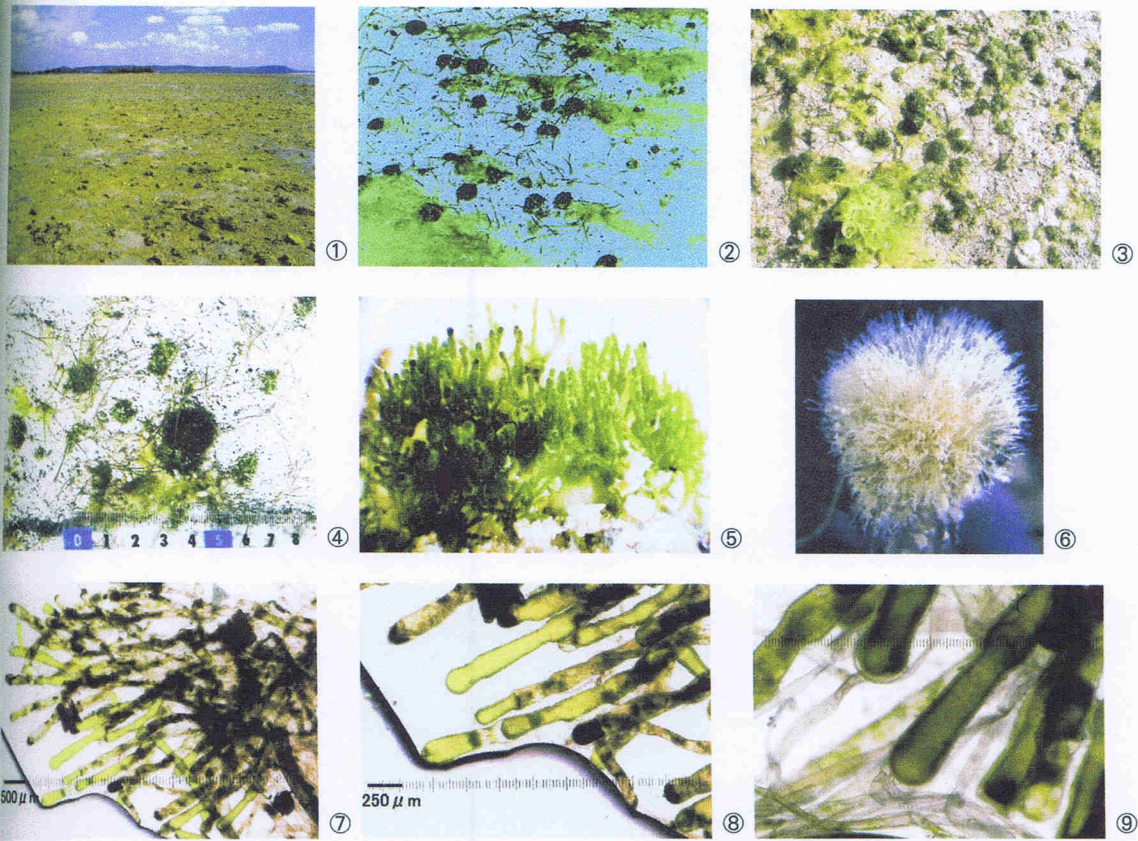


図3 ①クビレミドロの自育地-泡瀬干潟, ②③④クビレミドロの自生, ⑤クビレミドロの拡大, ⑥生卵器をつけたクビレミドロ (漂白), ⑦⑧⑨クビレミドロの顕微鏡写真 2007年2月 (②③⑤⑥: 棚原盛秀氏提供)



図4
中城湾泡瀬地先の海草モ場 (1989年撮影)
A: リュウキュウスガモ、ポウパアマモなどの大型種の海草帯
B: マツバウミジグサ帯
①: 砂採取後の掘削跡 (水深2~3m)
②③: 砂採取後の掘削跡 (水深3~5m)



図5 中城湾泡瀬地先の海草モ場（2007年のグラフィカ作成航空写真・モザイク処理） A：リュウキュウスガモ、ポウバアマモなどの大型種の花草帯，B：マツバウミジグサ帯，①：砂採取後の掘削跡（水深約3～4 m），②③：採取後の掘削跡，a：埋立工事中，b：矩形はオキナワモズク養殖場

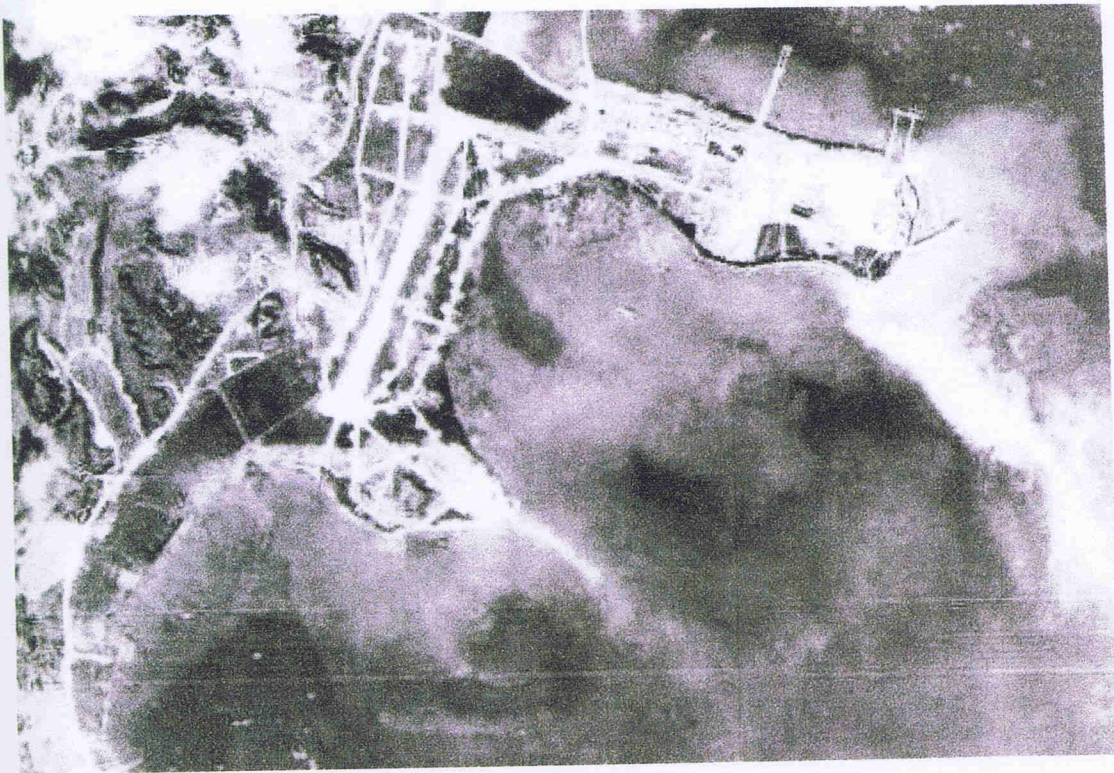


図6 1945年10月米軍撮影の航空写真 『オキナワアイランド 1944年～1947年』 沖縄出版（1988）より引用

を1945年撮影の航空写真(図6)で見ると、既に存在している。そこは砂採取後の跡地とし①の記号で示した。しかしその図6には1989年撮影(図4)と2007年撮影(図5)には②と③で示す窪地はない。その3枚の航空写真をそれぞれ対比して判明したことが、その中央部の大きな窪地は人為的攪乱あった場所で、長年にわたり大規模な砂採取が繰り返し掘削された痕跡とみなすことが可能である。

というのは、だいぶ以前の聞き取り調査で、その一帯で砂・砂利採取が盛んに行われた時代があったという情報を得ていた。3枚の航空写真から読みとれる内容と同様である。この考えを進めることで、それ以降の展開にひじょうに重要な概念が得られた。つまりこの3枚の航空写真を対比することで、その一帯の漂砂の移動量がかなり少ないことが読み取れるのである。なお、その大規模な掘削跡は砂採取規制のゆるかった頃の痕跡であるが、航空写真を用いると中城湾の内外で似たような掘削跡を確認できる。その背景には、沿岸生態系で重要な役割を担う海草モ場・干潟の重要性がまだ認識されていなかった時代があった。もっともその重要性は現在もまだ充分認識されていないようである。

話を戻すが、図4の②と③の場所では細砂の流入により、その形状がやや不明瞭であるが、周辺から次第に浅くなり、大型海草の生育量が増加する傾向は読み取れる。2011年1月、その掘削跡①の底部を調査したところ、透明度の低く細泥の滞留した状態にあり、その底面からランソウの一種(図10の①)の採集にとどまった。なお、図5はモザイク処理されているためその輪郭はやや不鮮明である。2007年2月、記号Bで現すマツバウミジグサ帯とその周辺部で、貴重種クビレミドロが生育する実態を観察した(図1, 図3)。そのモ場とその周辺でタレットアオリ、アオリ、アマアオサ、ヒトエグサ、フサシオグサ、ヒメハモク、オキナワモズク、イバラノリ、イソスギナ、ホソカゴメノリなどが普通に生育している(図10の⑩)。特に健全な状態で群生するイソスギナに興味深く観察した。というのはパラオ、フィリピンなど熱帯域を調査した経験のある大葉英雄助教(東京海洋大学)によると、イソスギナの群生する景観は沖縄諸島のみで見られる特徴である、と語っていたからである(第I部第4章4参照)。その後、湾奥部海岸の打ち上げ藻の中に見事なナガミズタマとミズタマを見つけた(図10の⑤⑥)。その湾奥部でヒトエグサ養殖が実施されているが、その生育環境はまだ比較的良好のようである。しかし干潟では長期にわたる大規模な埋立て工事が継続して実施されていることから、埋立て後の地形改変による潮流の変化が何らかの負荷をもたらすのではと懸念している。

中城湾内の潮流は勝連半島方面から流入し、反時計回りに知念半島方向へ流出する。そのため勝連半島先端、中城村浜、湾奥部を結ぶ三角地帯は、地形的にかなり遮蔽される環境になり(図11)、潮流は相対的に緩やかで底砂の移動量がかなり少ないと推定できた。泡瀬干潟に海草モ場が大規模に存在する理由をそこに求めることが可能である。そのことは換言すると、その海草モ場を埋め立てると、代替する場所が容易に見つからないことを意味する。同時に藻場喪失することは幼稚魚介類の保育場を半永久的に失い、湾内の生物生産の循環に多大な影響を与えることになる。

1989年夏、図4の下方に示す位置にトランセクト(Tr.N)を設定した。その底質は主に砂と砂泥からなり、調査に支障をきたすほど透明度の低い場所であった。干潮時に干上がる距離約190mまでの部分を除くと、リュウキュウアマモ、ボウバアマモ、ウミジグサが混生し、そ

2 ヒジキ採集地で試みた環境区分

中城村誌にかかわる委託調査により1991年3月にその地先を調査した。その際ヒジキが数株の1個所にまとまって生育しているのを確認した(図15)。その位置は図11に※印で示した。それはヒジキの生育条件を絞り込む際、重要な役割を果たした。すなわち勝連半島先端の平敷屋・ホワイトビーチと中城村浜、そして泡瀬を結ぶ三角地帯の中ではヒジキは生育していないという着想につながった。同様、金武湾においてもヒジキの有無を基点にして金武岬と東恩納、そして湾奥部を三角形で結ぶと、そこでも泡瀬地先と同様海草モ場は存在するが、イワノリ類、ハナフノリ、ウミトラノオは生育していない実態があった。つまりその部分を共通項でくくることができる。その三角地形の中は冬季の北東の影響から緩和される場所とみなしたが、ひじょうに興味深いことに中城湾の海岸に当たる波浪の強さを調査した津嘉山(1968)は、勝連半島が冬季の季節風を遮蔽する効果が中城村熱田付近で薄れるとし、そこより以南の護岸を強化する必要性を報告している。なお、熱田は浜の近傍に位置している。その報告の存在は後に知ったが、それは海草モ場の観察から構築した概念をかなり補強した。

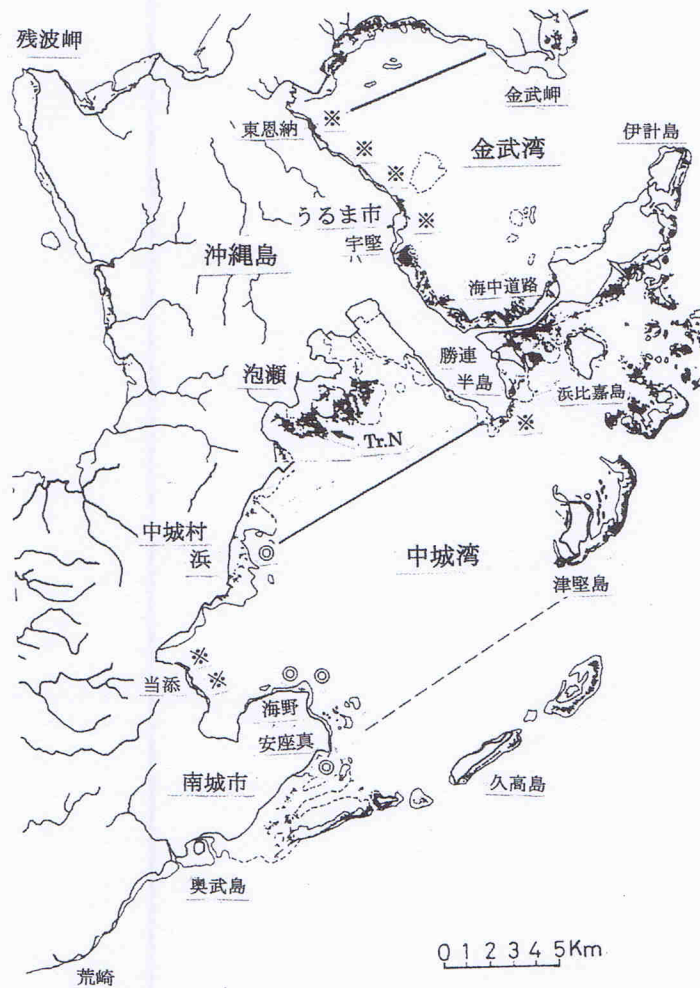


図11 中城村浜と勝連半島平敷屋を結ぶ三角地帯
※：ヒジキ生育地，◎：ヒジキ消滅地

当真 武 (とうま たけし)

1941年 沖縄市に生まれる。琉球大学生物学科卒。博士(農学)九州大学。〈職歴〉琉球政府立水産研究所 資源室・増殖室に勤務。本土復帰と同時に沖縄県水産試験場に身分を引き継ぐ。研究員・主任研究員・増殖室長・同八重山支場長などを経て、2002年 沖縄県海洋深層水研究所初代所長で退職。その後、琉球大学非常勤講師、沖縄県環境影響評価委員等つとめる。

【主な著書】

①『沖縄大百科事典』上・中・下 (1983、沖縄タイムス社) ②『浅海養殖』(1986、大成出版) ③『サンゴ礁域の増養殖』(1988、緑書房) ④『食用海藻の栽培』(1991、恒星社厚生閣) ⑤『地域生物資源活用大事典』(1998、農文協) ⑥『有用海藻誌』(2004、内田老鶴圃) など (②は共編著、それ以外は分担執筆)

沖縄の海藻と海草 自然環境・養殖・海藻250種

2012年11月5日初版1刷印刷

2012年11月17日初版1刷発行

著者 当真 武

発行者 上間 常道

発行所 出版舎 Mugen
900-0013 那覇市牧志1-4-31-2F
TEL. & FAX. 098-863-2562
E-mail: mugen_uema@ybb.nc.jp

印刷 刷本 文進印刷(株)

©2012, Takeshi TOMA
ISBN978-4-905454-06-9 C0045

Printed in Japan